

根本杏林堂

<https://www.nemoto-do.co.jp/>

臨床の質を高める信頼のパートナー

【主な紹介製品】

- CT用造影剤注入装置「デュアルショットGX10」
- 「造影剤モレ検知サポートシステムLD」
- 「CEエビデンスシステム」
- 臨床情報パネル



「造影剤モレ検知サポートシステムLD」



CT用造影剤注入装置「デュアルショットGX10」



CEエビデンスシステム

●CT用造影剤自動注入装置

「デュアルショットGX10」

「デュアルショットGX10」は、最適な造影環境を提供するための技術を集約した装置である。従来の体重法では、患者の体格によって造影効果に差が生じる問題があったが、同装置では「AdBW (Adjustment Body Weight Protocol)」を採用し、個々の患者に適した造影剤投与を実現する。また、安全性を強化するために「圧力監視モニター」を標準装備し、検査室内での安全確認を可能にしている。

●「造影剤モレ検知サポートシステムLD」

CT技術の進化に伴い、造影剤の高速注入が求められる一方で、血管外漏

出のリスクも高まっている。さらに、タスクシフトの進展により、診療放射線技師が静脈ルートを確認する機会が増え、安全な投与を支援する技術の重要性が増している。「造影剤モレ検知サポートシステムLD」は、血管外漏出を早期に検知し、患者の負担を軽減することで、安全な造影剤投与をサポートする。

●「CEエビデンスシステム」による情報管理

造影検査の安全性を向上させるため、インジェクターと院内ネットワークを専用ゲートウェイで接続し、造影検査に関する情報を管理する「CEエビデンスシステム」。これにより、副作用情報や腎機能測定値などの重要情報をインジェクターコンソール上で確認で

き、検査の適否判断が容易となる。また、副作用情報がある場合にはアラートを表示し、見落としを防ぐことで患者の安全性向上に貢献する。さらに、造影剤投与の結果を自動的に記録し、会計システムとも連携することで、請求ミス防止にも寄与する。

●臨床情報パネル

CT/MRI/ANGIO装置の進化に伴い、より高度な撮影が求められるようになってきているが、造影剤の注入速度や量を適切に調整することで、最適な画像コントラストを得ることが可能である。同パネルでは、造影プロトコルに焦点を当て、臨床画像と注入方法を紹介している。